

2月「Deutsche Häuser」 アントニア・シュルト

1. 去年の今ごろたしか、「北ドイツの冬の寂しさ」についての投稿を書いたと思います。土の凍った畑や霧に包まれた木々の写真も付けたかと思います。あの時はまだ、四階建てのアパートに住んでいて、日当たりの良い部屋だったので、「暖房を一度も入れずに」と自慢しながら、日本での初冬を割と快適に過ごしてきました。しかし、今年の冬は違います。西小林に引っ越し、寒さの本当の意味を人生で初めて知りました。いや、知らされてしまいました。

今住んでいる昭和61年築の一軒家が大好きで、理想の家ということ为前提として、この家寒いわ。ものすごく寒いわ。庭から霧島山々がよく見えるところが大きな魅力となって、迷わず、借りることにしましたが、山からこんなに寒い風が吹いてくると分かっていれば。。。

さすがに、気にしないで住むことにしたいと思います。

2月「Deutsche Häuser」 アントニア・シュルト



2. ですが、こういう状況があるため、最近ドイツの家のこと懐かしく思うようになりました。環境や歴史などが国によって異なるので、当然家づくりに関する習慣や考え方もところによって違います。ドイツの家はデザインより性能が大切にされています。家を新しく立て直すよりも、新しくリフォームしながら、住み続ける人が多いため、50年以上の家は当たり前です。瓦屋根と木製サッシが多く、断熱性の高い家がほとんどです。ドイツ人の性能についてのこだわりが、法律でも反映されているほど強く、調べてみると、2020年ドイツでは新築・中古問わず、建物に36cmの断熱材を入れることが義務付けられています。

2月「Deutsche Häuser」 アントニア・シュルト

3.今年の冬は、アウターを着て、暖かいお茶を飲みながら、ドイツの家に住んでいたころの室内温度を思い出して、贅沢な人生送ってきたなと思い出しながら、寒さに耐えました。氷点下にならないように、時としてストーブなどを入れたりしますが、6割の熱が窓から逃げてしまうことがやはり気になります。と言っても、お風呂でぽかぽかになって、早く寝たり、旬のお野菜が入ったお鍋を食べたりしてきて、今シーズンは一度も風邪をひいていません。むしろ、寒さをしのいだおかげで、体がさらに強くなってきていると感じます。これからも寒さを避けて、向き合っていきたいと思います。そうすると、春が早く見えてきます。

